

税金問題の答えとは？

京都府立南陽高等学校附属中学校 3年 平原 礼名

「皆さんには税の必要性について学んでもらいます。」

今まで繰り返し行われてきた税の授業。今日も学ぶ日がやってきた。私は過去の記憶を遡る。

「税金は、公共施設の提供や道路の整備など、私達の生活に欠かせないサービスを賄っています。」

先生の給料もサービスの一つですね、と無言で相槌を打つ。先生のおっしゃる通り、もし税金がなければ私達は生活が不便どころでは済まない。あらゆる公共サービスが解体され、瞬く間に社会が無秩序になる。先生も教壇に立つことすらできていないだろう。きっと、その税という制度が必要であることは國民は十分に理解しているのだ。しかし、税金を増やすとなれば國民から批判が殺到してしまうのが現状だ。私は、税金問題は簡単に解決出来ないと深く実感する。

「そして、大切なのは、一人一人税の意見を持つことです。」

意見。先生の言い分は最もだと思う。だが、私はこれまで耳にした意見の中で、妙だと感じる考えはなかった。税金を増やすべき、減らすべき、維持すべき。全ての主張が真っ当な答えであるように見えてしまう。これでは一貫した意見を持てない。

この時、あることわざが頭に浮かんだ。

「問い合わせた部族は生き残ったが、答えを持った部族は滅びた。」

たしか、アメリカのことわざだ。私は一人納得した。なにも、答えを持たなくとも良いのだと。税について常に真正面から向き合う姿勢をとり続けていくことが重要なのだ。思えば、答えを固めてしまうと、他の意見を認めることが難しくなってしまう。意見は話し合うためにあるのだから、当然かもしれない。私は自分の成長を実感した。

「税金問題は、日本國民として皆が考えなければいけないことです。ですが、一人で考え続ける必要はありません。國民は一人じゃありませんから。」

税についての考え方は、人それぞれ異なる。正解は一つではなく、それぞれが異なる立場や状況で見つけ出すべきものだ。重要なのは、固定された答えを持つのではなく、常に「問い合わせ」を持ち続けること。社会が変わり続ける中で、私たちもまた考え方を柔軟にし、他者との意見を共有しながら、より良い未来を築いていくために協力し合うことが求められる。共に考え、支え合うことで、より良い社会を実現できると私は信じる。